

## 年度当初に思う

茨城県統計課長 田 口 源 治

経済社会の急速な発展のなかに情報化時代とよばれる世代を迎えて、統計の必要性和重要性が認識強調され、それぞれの分野でますます活用されるようになってまいりました。特に本県は、首都圏の圏域に位置し、先進県への飛躍をめざして県勢はいま非常な速度で変貌しようとしております。このような情勢からも、統計の果たす役割りは従来にもまして重要性和需要度は増大してまいり、われわれ統計業務に携わるものとしてその責務の重大さを痛感するものであります。

本年度は、さる2月に行なわれた世界農林業センサスの審査および集計、また10月にはわが国最大の調査規模と長い歴史と伝統をもつ国勢調査が、またこの間6月には従来の調査期日を1ヵ月繰上げて商業統計調査が行なわれ、その他にも通常の諸統計調査が平年どおり行なわれるなど、われわれ統計関係者にとつては例年にもまして多忙な年度になることが予想されます。

したがって、これら調査業務に関係され特に第一線で活動される統計調査員および市町村統計職員のご苦労はなみなみならぬものがあろうと思われれます。しかし統計関係者にとつては、正に真の姿が認められる好機であり、統計のもつ意義和使命を十分に自覚し、業務が円滑に行なわれ、よりよい成果が得られるよう切に望むものであります。

さて、本年度最大の業務は大規模調査として行なわれる国勢調査であり、この調査に対処するため4月1日から「昭和45年国勢調査茨城県実施本部」を設け、本県統計課の全組織をあげて実施体制を整えその万全を期することとしました。

ご承知のように国勢調査は、近年特に変動のはげしい県、市町村の人口分布および構造を早期にかつ詳細にはあくし、行財政施策の基礎資料を得る基本的統計であり、各方面から大きな期待と関心がもたれているわけがあります。

この調査の第一線を担当する本県1万人余の統計調査員の使命はきわめて重大であり、その活動の如何は業務の遂行を大きく左右するものと思われれます。コンピューターによる集計機能がどんなに効率化しても調査票類の作成に直接あたる統計調査員が正しくその業務を行なわなければ何にもなりません。

この重大使命をもつ統計調査員については、その確保対策および優遇措置等が統計審議会において論議検討されてはおりますが、その解決と実現はかなり困難のようであります。

このようなとき、さきほど行なわれた世界農林業センサス調査員互助会の制度は、まことに有意義な共済制度であり、調査員の相互扶助、一面においては連帯感の醸成に役立つものとして高く評価されるものと思われれます。

本年度、国において公務災害補償の補てん財源の措置が講じられたことについてはその労を多としますが、日をおつて激増しつつある交通災害を考えてもはたしてこの予算で満足できるかどうか危惧されます。

きたるべき国勢調査にはより以上の統計調査員が動員されます。しかも交通戦争さなかの実査でありますので、犠牲者が出ないとも限りません。予算措置が不十分であれば、優遇措置の一環として農林業センサス互助会と同様な共済制度の全国的結成を図り、いささかなりとも統計調査員が安心して活動できるような措置をもつと前向きで検討すべきであらうと望まれます。

さらに、本県では農林業センサス調査中に調査員の死亡1件、傷害2件という事態が生じました。これに対してはすでに所定の保険金が交付されましたが、不幸なかで何よりもの慰めであつたろうと思われれます。

以上のほか、本県の電算機稼動(45年1月)に対処して、統計業務に検討を加え、集計事務の合理化を図る一方、新たな統計企画および従来から必ずしも十分でなかつた調査結果の解析などの分野に、よりいつそうの力を注ぎたいと考えております。また、本県経済の包括的、体系的なはあくのための県民所得勘定の整備を図るとともに市町村所得統計の充実指導にも努力してまいりたいと存じます。

前述のように、首都圏域の拡大のなかで、着々として先進県への歩みを続けている本県にとつては、適切な基礎的資料を提供するのが統計のもつとも主要な任務であります。今後とも関係各位のご協力のもとにこの任務の遂行を期してまいりたい決意であります。